MMC NEWS
MEIDAI MASS-COMMUNICATION CLUB

発行　明治大学マスコミクラブ
〒101-8301
東京都千代田区神田駿河台1-1
明治大学広報課内 MMC事務局
電話　03-3296-4082
FAX　03-3296-4087
e-mail : mmc@meiji-mmc.sakura.ne.jp
URL : www.meiji-mmc.com
発行人　堀口博史
編集　校條 真、山岸順一、隈元浩彦

2020年 新年ご挨拶

3年間で仕込んだ事業の本格稼働をめざす1年に！

MMC会長　堀口博史

皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年は、新天皇のもと「令和」という新たな元号がスタートし、われわれもこれまで温めてきた新企画をスタートさせました。

●新旧様々なイベント展開

「メディアエンタメ勉強会」「ビジネス交流会」等のフォーラム系から、「バーベキューパーティ」「スポーツ応援」等のエンタメ系に至るまで、〝月に一回は何かのイベントが行われている〟という状況を創りだすことができました。

残念ながら、各イベントの告知が十分に行き届いておらず、参加者がまちまちというのが現状で、本年はより多くの会員が様々なイベントに参加できるよう、内容説明と告知を徹底していきたいと思います。

●就活セミナーはMMCの核

従来から継続してきた学生向けの「就活セミナー」では、新講師陣の協力を得て昨年度も多くの有望な新人をマスコミ界へ送りだすことができました。これはMMCの数ある活動の中でも誇っていいものだと思います。今年も就活セミナーを活動の核として推進していきます。

●友好団体・大学との連携

「校友会」「全国紫明クラブ」「建設不動産駿台会」など、これまでの友好団体とはさらに親睦を深め、新規団体として、「明治大学料飲紫紺会」との交流も図っていきます。また大学とは積極的に関与していき、本年もマスコミ界と大学のパイプ役として、大学イベントの企画・構成・運営などに尽力したいと思います。

●新規会員獲得に邁進

新規会員の獲得では個人で活動するOB・OG（芸能家・監督・プロデューサー・著述業等）の勧誘を行うほか、広義のマスコミとして、企業の広報・宣伝分野まで会員資格の幅を広げて増員対策を図ります。

さて、比較的若い理事で運営してきた新体制も4年目に入りました。会員の皆様にはご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、引き続きご助力・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

また多種にわたるMMCの活動に、少しでもご参加いただけますよう、重ねてお願い申し上げます。（82年文学部卒／ライトハウス）

明治大学と五輪、100年前に想いを馳せる

MMC副会長　平石浩章

2000年シドニー五輪にて

明治大学のスポーツと歴史を合わせ見ると、実に興味深い事実が浮かび上がってくる。

国際連盟が発足し、日本が原加盟国として国際舞台に華々しくデビューしたのが今から100年前の1920年。思うにこの年は、明治大学にとっても大きな節目の1年だったのではなかろうか。

2月の箱根駅伝第1回大会で往路優勝を果たしたことから学内はスポーツ熱に包まれ、この年の前後から運動部が続々と創部された。

4月の大学令で晴れて大学に昇格し、秋には我が校歌「白雲なびく駿河台～」が社会的にお披露目され、万雷の拍手で迎えられたという。

明治が熱気に包まれていたその頃、日本から約1万キロ離れたベルギーでアントワープ五輪が開催された。その世界最大のイベントで明治は存在感を示す。

2回目の五輪参加となる日本選手団は嘉納治五郎を団長に選手はわずか15名。そのうちの1人が陸上短距離100m、200mに出場した選手である加賀一郎である。

彼こそが明治大学の現役学生として、初めて五輪に出場した。残念ながら、両種目とも予選敗退したが、彼の五輪出場は当時の明大生を大いに歓喜させたに違いない。

ドラマ『いだてん』に登場した鶴田義行は、明治大学入学前の1928年アムステルダム、卒業後の1932年ロサンゼルスで、男子平泳ぎ200mで金メダルを獲得。日本人初となる五輪連覇を果たした。1929年に明治に入学した鶴田は同年世界記録もマークし、世界を驚かせている。

今から100年前の詳細を窺い知ることはできないが、当時から明治の学生は「強い明治」を、そして「無敵の明治」を求めて選手を応援し、その文化が母校明治を愛する伝統を育んできたのだろう。

スポーツ応援で定番の「三々七拍子」が五輪出場1年後の1921年、明治大学の応援団長によって発案されたことはこれを証明しているかのようである。本年も「スポーツ明治」の応援をよろしくお願いいたします。（85年法学部卒／日テレ アックスオン）

2006年トリノ五輪にて

神田発信！大学スポーツの軌跡

共催：明治大学史資料センター、専修大学大学史資料室、中央大学広報室大学史資料課、日本大学企画広報部
協力：法政大学史センター　後援：千代田区

2020年はオリンピック・パラリンピックイヤーであり、神田の大学から初のオリンピック出場者を輩出して100年目にあたります。神田の大学スポーツの歴史を展示をとおして振り返ります。

会期　2020年1月24日㈮～4月12日㈰　開館時間　10：00～17：00（最終入場16：30）　入場無料
会場　明治大学博物館　特別展示室（駿河台キャンパス・アカデミーコモン地階）
明治大学中央図書館ギャラリー（図書館開館中観覧可。開館日時等はHPをご覧ください）

併催シンポジウム　**神田発信！近代スポーツと大学スポーツ**

神田・大学スポーツ出身のアスリートと専門家が大学スポーツの過去・現在・未来を語り尽くします！　参加無料

コーディネーター　山本浩氏（法政大学スポーツ健康学部教授）

登壇者（50音順）
オリンピアン
▶金子正明氏（専修大学出身　メキシコシティーオリンピックレスリング男子63kg級金メダリスト）
▶杉山隆一氏（明治大学出身　メキシコシティーオリンピックサッカー銅メダリスト）
▶西川大輔氏（日本大学出身　ソウル・バルセロナオリンピック男子体操団体銅メダリスト）
▶山本　亮氏（中央大学出身　ロンドンオリンピック男子マラソン日本代表）
学識経験者　森　正明氏（中央大学文学部教授）

日時　2020年2月29日㈯13：00～15：10
会場　グローバルホール（駿河台キャンパス・グローバルフロント1階）

申込方法（1月20日申込開始）
メールまたはFAXにて、参加者名・住所・電話番号と「明治大学広報735号を見ての2月29日シンポジウム申込」である旨をご連絡ください。
Email：history@mics.meiji.ac.jp
FAX：03-3296-4365

問い合わせ　明治大学史資料センター　TEL：03-3296-4448

多彩なゲストも！まじめな学習会も！幅広い交流会も！ 2019年度 MMCの多彩な活動報告

2019年は、これまでの定番行事のほかに、勉強会や交流会などの実利的なイベントが数多く開催されました。

「MMC新年総会・懇親会」盛大に開催！

2019年度の「MMC新年総会・懇親会」が1月23㈬、銀座クラシックホールで開催され、来賓・会員・学生合わせて約90名が参加しました。今回の総会では、新体制2期目に入り、前年度の活動報告・会計報告に続き、2019年度の活動方針を提案し、すべて満場一致で可決承認されました。事業方針は「さあ、仕込みは終わった！～新体制2期目ということで、1期2年間で仕込んだあらゆる事業の本格稼働をめざす～」というもの。

懇親会では、明治大学常勤理事・鈴木利大様、校友会会長・向殿政男様からご挨拶をいただいたほか、就職キャリア支援部・舟戸一治部長、「全国紫明クラブ」眞柴眞明会長、四之宮浩事務局長、「建設・不動産駿台会」杉山慎二事務局長、美山茂敏副委員長にお越しいただきました。

特別ゲストとして第55回全国大学ラグビー選手権大会で、見事22年ぶり13回目の優勝を果たしたラグビー部のキャプテン福田健太選手（SH／4年）、高橋汰地選手（FB／4年）、斉藤剣選手（PR／4年）、武井日向選手（HO／3年）、矢野湧大選手（WTB／3年）にお越しいただき、名門復活までのエピソードをたっぷり伺うことができ、大いに盛り上がりました。

後半は、MMCの就活担当理事・大林龍彦さんの進行で、マスコミ業界に内定が決まった学生の自己紹介のほか、現在、就活真っ最中で最終面接に臨む学生の決意表明で、会場からは「よしっ！」「がんばれっ！」の掛け声が飛びました。

新会員紹介のあと、最後はMMC恒例、和田哲郎さんの明大節と、大前実之さんのエールによる校歌斉唱で締めくくり、盛況のうちにお開きとなりました。（報告：校條 真／84年政経学部卒／風讃社）

第3回「ビジネス交流会」

2月28日㈭リバティータワー1081教室で、第3回「MMCビジネス交流会」が開催されました（参加者：会員および紹介者を含め16名）。開催に先立ち、堀口会長が「現役学生の就職支援はずっと進めてきました。今後はこの交流会が、卒業生へのビジネス支援の場になることを期待しています」と挨拶。

今回のテーマは『スマート福利厚生サービス』で、ソフトバンク㈱の小谷 肇さんと脇谷あずささんがプレゼンテーションを行いました。従業員への福利厚生にとどまらず、社員採用の就活支援から入社後のスキルアップ、専門的な相談まで、スマートフォンを利用した月額1人850円で可能なサービスを解説。

大企業はもちろん、中小企業向けにもコストを抑えた提案でした。

プレゼンでは質疑応答の時間を設けたほか、後半の1時間で参加者全員が自己紹介を兼ねて事業をアピールし、名刺交換で交流を深めました。この交流会が、会員相互の実際の事業展開に結びつけばと思います。（報告：中川時彦／80年商学部卒）

「武内裕杯ゴルフコンペ」

4月5日㈮快晴微風、後半は春の嵐、桜満開の相模カンツリー倶楽部で、参加者名11名による「武内裕杯ゴルフコンペ」が行われました。

参加者（敬称略）はランク順に、堀威夫、楡郁太郎、中根薫、宇都大勝、奥福雄、猪野慎吾、木村武、大西敏勝、久保田耕平、苅部彰夫、山田祐司の各氏で、堀さんが見事、優勝に輝きました。

また、優勝カップ並びに多数賞品を寄贈していただいている陶芸家・武内裕さんの作陶展が4月14日～21日、銀座「SILKLAND GALLARY」で開催されました。（報告：楡郁太郎／64年商学部卒）

第2回「メディアエンタメ勉強会」

4月8日㈪リバティータワー1091教室で、明大卒のメディア業界・エンタメ業界の方々を対象とした第2回「MMCメディアエンタメ勉強会」を開催しました（参加12名）。このメディアエンタメ勉強会は、20代～40代のメディア業界・エンタメ業界関係者が集まり、勉強会を通じて、今のメディア業界・エンタメ業界の最新動向や知見を得るとともに、業界内での人脈形成を目的に行うものです。

今回は、MMC理事で『サンデー毎日』編集長の隈元浩彦さん（85年政経学部卒／毎日新聞出版）を講師に招き、新聞メディアの現状と雑誌業界、『サンデー毎日』の戦略についてお話いただきました。（報告：北山隆一／94年文学部卒／ジャパンティーヴィー）

「サマービアパーティ」

7月17日㈬銀座クラシックホールで、恒例の「MMCサマービアパーティ」が開催されました。特別ゲストの体育会ゴルフ部女子部の優勝メンバーや新規会員を含め、総勢60名の幅広い世代が集結し、盛大なパーティとなりました。

体育会ゴルフ部女子部は、第42回全国大学女子ゴルフ対抗戦で初優勝を果たし、この粋な計らいはMMC理事でもある女子ゴルフ部監督・長尾睦子さんのご尽力によるものです。

その後10月20日には和泉キャンパスに、プロゴルファーのタイガー・ウッズ氏が来校し、体育会ゴルフ部女子部との交流イベントが催されました。

続いて会員の和田哲郎さん（元広告代理店）をネタにしたビジネス本、『まちがう人』（ダイヤモンド社）がご本人から披露され、喝采を浴びました（詳細は4ページ）。

ここ2～3年の傾向である、若手・中堅の新規加入が増えて若返りが進み、今後の会の活性化に期待が持てるサマービアパーティとなりました。（報告：校條真）

第4回「ビジネス交流会」

第4回「MMCビジネス交流会」が9月26日㈭リバティタワー1161教室で開催され（参加10名）、副会長の澤田愼介さん（83年政経卒／ソニー生命）が、「少子高齢化から考える……2000万円は本当に必要か？　現状と将来を知れば、ビジネスも変わる」と題して講演。

冒頭挨拶に立った堀口会長は、「マスコミ業界での情報交換を交えながら、ビジネスマッチングを一緒に考える場になればいいと思います。進め方も含め、議論を深めていただきたい」と述べました。

第一部で澤田さんは、アメリカと比較した人口推移や人口構成、GDP、社会保障などのデータを用いながら、「老後は自助努力・自己防衛が必要である」ことをレクチャーしました。

第二部では、参加者が自己紹介や事業紹介を行い、いかにしてビジネスマッチングができるのか議論を重ねました。今後もMMCのメンバーが、ビジネスを通じて連携や協業ができることを期待しています。（報告：中川時彦）

第29回「MMCサロン」

第29回「MMCサロン」が5月15日㈬、神田神保町の中華「華龍飯店」で開催されました。当初は10連休翌週の開催ということで、どれくらいの参加が見込めるかという不安もありましたが、ふたを開けてみれば杞憂に終わり、20代～60代の幅広い25名の方々が参加。一昨年（2018年）、黄綬褒章を受章された佐谷静玲さんが嬉しいご挨拶をされました。

MMCサロンは会員候補を気軽に誘えるイベントとして定着し、MMCの〝お試し企画〟として、初参加の方々にもたいへん好評でした。今後も「明治マスコミ人」の輪を広げていきたいと思います。（報告：北山隆一）

第30回「MMCサロン」

第30回「MMCサロン」を8月28日㈬、御茶ノ水ソラシティ「プロントイルバール」にて開催しました。「MMCサロン」は2010年4月、当時の堀口博史理事（現会長）の発案で始まり、その後、明大卒の幅広い年代のメディア業界関係者が気軽に懇親を図る場として定着し、30回の節目を迎えました。

今回も43名が参加し、大変有意義な会となりました。昨今、「MMCサロン」への参加をきっかけにして、入会してくださる方が増えております。今後も幅広い年代の方々が気楽に〝交友〟できるサロンをめざしていきます。

第31回「MMCサロン」

第31回「MMCサロン」を、11月27日㈬、神保町の「華龍飯店」にて開催しました。今回は令和元年の忘年会を兼ねて行われ、33名の方にご参加いただきました。今年度も適宜、開催していきますので多数のご参加をお待ちしています。（報告：北山隆一）

13年にわたる就活支援、今年も成果を挙げました！

就活担当理事　大林龍彦

「明大のマスコミ業界への燃える火を絶やすな！」――その精神のもとにMMCでは、13年にわたって現役学生たちの就活支援を続けてきました。

具体的には「マスコミ就活セミナー」（2000年より）、そして「マスコミ講座」を、1年を通じて開講しています。

「マスコミ就活セミナー」はグローバルホールにて、春に2日間、秋に特別編として1日、マスコミ人のOB・OGを招いて開催しています。

特に秋は、その年のマスコミ内定者にも登壇してもらうので、就活生の視線も熱くなり、たいへん盛り上がりました。

また「マスコミ講座」は、7月中旬から2月あるいは3月末までの約8か月、毎週リバティタワーの教室で学生のために、「作文・面接・エントリーシート作成・企画の立て方・グループディスカッション」など、マスコミ業界への就活に役立つことを全てにわたり、支援・指導しています。

その結果、今年4月に晴れて入社が内定しているのは次の通りです。日本経済新聞社、北海道新聞社、BSフジ、BSテレ東、琉球放送、新潮社、AOI Pro（CM制作）、ティー・ワイ・オー（CM制作）、J:COM（IT）。

マスコミ業界のほかにも、日本生命、日立システム、日本赤十字社本部、トライグループなど、在籍講座生全員が、名のある会社に内定することができ、今年も例年以上に成果が上がったものと自負しています。これもボランティアによる各講師の熱のこもった授業のおかげだと、感謝しております。

さて、本年も1月まで残った21名の3年生たちが、日々就活に向かって研鑽を重ねております。最終面接まで辿り着くと、合否はもはや紙一重です。

OB・OGの方々の会社をめざす学生もいるかと思いますので、その際はお声がけさせていただきます。母校の後輩たちのために、何卒プッシュをしていただけましたら幸いに存じます。ぜひともよろしくお願い致します。

（78年／政経学部卒／共同テレビジョン）

ホールを埋め尽くした就活生

毎年、新年総会では嬉しい報告が

MMC会員が新刊を上梓！

2019年は、MMC会員をネタにした本を皮切りに、会員自身が著者となった本も出版された。硬軟取り混ぜた〝至極の1冊〟を、心ゆくまでご賞味あれ！

『まちがう人』まちがい大将・和田さんの迷言&迷事件集「wadadas」

和田さん研究家・K著

■ダイヤモンド社／B6判・188ページ・本体1100円＋税

【内容紹介】

広告業界に実在した都市伝説的な人物「和田さん」（※77年政経卒、ご存じわれらが和田哲郎さん！）の、あり得ないまちがいを集大成した大爆笑の一冊。

本書は、「まちがう人」和田さんが起こした仰天エピソードを、身近で見ていたK（ケー）氏が、記憶の限り事実に基づいて記した「実話」である。数々の「まちがい」にも拘わらず、〈なぜかみんなに愛されている不思議な人〉和田さん。その人柄を讃えたうえでK氏は「（間違いを）許し合う社会、温かく認め合う人間関係が今だからこそ大事」と語る。

昨年亡くなった漫画家さくらももこさんも和田さんの「まちがいネタ」をエッセーで何度も取り上げ、出版化でも協力を約束。さくらさんが描いたイラストが本書の帯を飾っている。

『紫紺の誇り』明大ラグビー部に受け継がれる北島イズム

安藤貴樹著（ノンフィクションライター／86年商学部卒）

■ベースボール・マガジン社／四六判・232ページ・本体1700円＋税

【内容紹介】

「明大ラグビー部にとって勝敗は二義的なもの。本当の目的は、自分たちのラグビーができたかどうか。たとえ負けても、自分のプレーに自信をもって敗れたなら胸を張れ」

かつてそう語ったのは67年間にわたりラグビー部を率いた名将・北島忠治監督。没後22年の時を経て、昨年、全国大学ラグビー選手権でみごと復活の狼煙を上げた明大ラグビー部の軌跡を振り返る至極のノンフィクション！

激しく静かに北島イズムを受け継ぎ、復活を遂げた明大ラグビー部、かつての「雪の早明戦」「雨の慶明戦」など、伝説の試合の息遣いが伝わってくる。「なぜ、あのときPGを狙わなかったのか（狙ったのか）」――選手の葛藤と機微に迫る1冊。

『落語DE古事記』

桂竹千代著（噺家／2011年大学院文学研究科古代日本文学専攻修士課程修了）

■幻冬舎／四六判・234ページ・本体1300円＋税

【内容紹介】

キャラ立ちすぎ！情熱的すぎ！自由すぎ！神様の世界は奔放で愉快でミステリアス。おふざけが過ぎる神々の話にツッコんだり、さらにおふざけを追加。それでいて神話が理解できる。

その神様が祀られる神社も紹介して実用書にもなる。処女作にして渾身の1冊！

○国の歴史書なのに「1人の部下の記憶力」に頼って書かれていた！

○スサノオは「女の獲り合い」で大蛇と大ゲンカ！

○娘の恋人を「斬新なイタズラ」でイジメ抜いた有名な神様とは？

○「乙姫様」の正体は、サメ！

などなど、騙し合いに殺し合い、禁断の恋とエロス、ホラーにミステリーにSF。――古事記はエンタメのてんこ盛りだ！